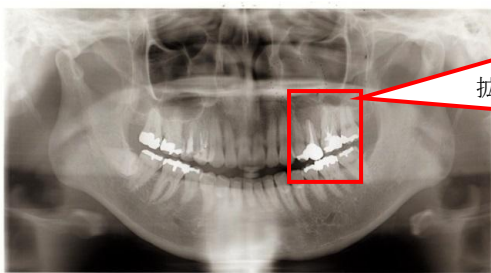


## 特集

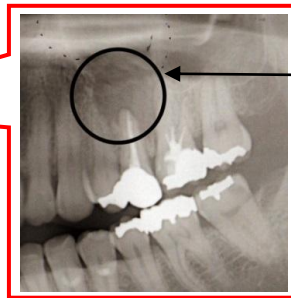
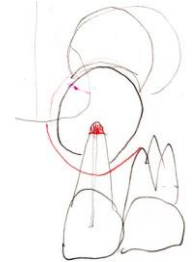
しこんたんせつじょじゅつ  
歯根端切除術腫れた歯を  
抜かずに残す切り札!!

## 歯根端切除術とは

歯根端切除術とは歯の根の先に病巣が含まれる歯根の先端を切り取る手術です。虫歯が進んで感染が歯髄に及んだ際の根管治療後に数カ月～十年以上を経て、歯根尖部にできた病巣のうち、種々の理由でその再治療が困難な場合の救済的手術としてとても有用です。再び歯の機能を取り戻せる可能性がある治療です。



拡大→

根の先に  
病巣が見られる

▲診療時ドクターによる説明図

## 歯根端切除術の治療の流れ

- ① 痛み止めの麻酔の注射をします。
- ② 歯根の先の歯茎を切り開きます。  
※状態によっては骨を削ることもあります。
- ③ 歯根の先端を切断して取り除きます。  
※状態によっては歯根の周囲の病変部分も取り除きます。
- ④ 歯根の切断面にお薬等を入れます。
- ⑤ 切り開いた歯茎を糸で縫います。  
※状態によっては縫わないこともあります。
- ⑥ 6か月後にレントゲン撮影をして経過を観察します。  
経過が良いと旧病巣部に骨の再生が認められます。

## 歯根端切除術の治療が可能な場合

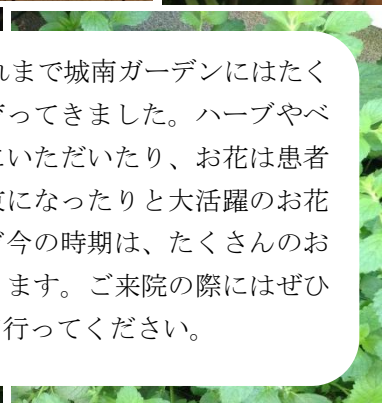
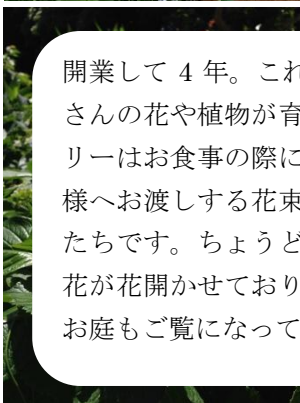
- ・ 根の治療で治る見込みがない場合
- ・ 根管の形状が曲がっていたり、細すぎたりしていて根の治療では完全に感染部分を取り除けない場合
- ・ 被せ物やその中にある土台を外すことが難しい場合
- ・ 根管に詰めてある薬剤が根の先から溢れていて除去できない場合
- ・ 外傷で歯の根の先が破折した場合

## 歯根端切除術の治療ができない場合

- ・ 重度の歯周病を合併している場合
- ・ 歯が大きく揺れている場合
- ・ 急性炎症を起こしている場合

※場合によっては上記の状態でも手術可能なことがあります。

歯根端切除術は、すべての歯科医師が行える治療ではありませんが、当院には経験豊富な口腔外科専門医がおりますのでご安心してお任せください。



開業して4年。これまで城南ガーデンにはたくさんのお花や植物が育ってきました。ハーブやベリーはお食事の際にいただいたり、お花は患者様へお渡しする花束になったりと大活躍のお花たちです。ちょうど今の時期は、たくさんのお花が開かせております。ご来院の際にはぜひお庭もご覧になって行ってください。

## 理事長コラム (十三)

### 歯根端切除術は 大臼歯でも可能です

今回は歯根端切除術を特集しましたので、これについてももう少し説明を加えたいと思います。

「歯をできるだけ残したい」という思いは臨床に従事する歯科医師にとっての基本的な治療理念であり、もちろん患者さんの希望でもあります。手術を得意とする筆者から口腔外科医にとっても同様、否むしろ、その思いがより強いのではと感じています。そして、歯の保存手術のなかでも歯根端切除術はその代表的なものです。

復に移行します。

ところが、歯髄の走向は根尖付近では複雑でまるで川の支流が分岐するようになっていくことが多く、根管治療が難しい場合も少なくないのです。通常、根管の数は前歯部で一本、小臼歯で一〜二本、大臼歯では二〜四本であり、奥の歯ほど根管治療が難しくなります。こうして、根管充填を根尖まで適切にしきれなかった部分の感染巣が原因となって根尖部歯槽骨に炎症性の慢性病変を発生させ、最終的には歯根嚢胞に移行します。従って大臼歯こそ歯根端切除の適応が多いこととなります。前歯部に比べ手術手技は難度が高いですが、筆者は十分な経験がありますので、最適な医療を提供できると確信しています。

虫歯によって歯冠部の象牙質が感染・崩壊して炎症が歯髄にたつと歯髄炎、さらには進むと根尖性歯周炎になります。この状態になると感染根管治療(根っここの治療)の適応になり、週一回、数回の頻度で根管壁の感染象牙質を物理的に削除したり、薬剤で根管を清掃したりして、最終的に根管充填を行って、歯冠修

